

喀痰吸引のケアを要する幼児(4歳児)のプール遊び活動における配慮

施設名	N 保育園(私立)		
対象クラス	0歳児	1歳児	2歳児 3歳児 <input checked="" type="checkbox"/> 4歳児 5歳児
対象クラスの子どもの人数	24名	対象クラスの保育者の人数	2名
基礎疾患名	声帯外転障害・気管開窓術後		
医療的ケアの類別	喀痰吸引(口腔・鼻腔内) <input checked="" type="checkbox"/> 喀痰吸引(気管カニューレ内部) <input checked="" type="checkbox"/> 導尿 経管栄養(胃ろう・腸ろう) 経管栄養(経鼻) インスリン注射 その他医行為()		
看護師の配置	常勤 非常勤	<input checked="" type="checkbox"/> 訪問看護の利用	その他()
看護師による保育活動へのかかわり	無(医療的ケアの手技のみ) <input checked="" type="checkbox"/> (保育補助(見守りも含む)としても参加)		

【受け入れの経緯】

入所年齢	2歳
入所のきっかけ (問い合わせ主体など)	高松市からの紹介 受け入れ前に施設見学と面談(自治体・医療的ケア児等コーディネーター・保育園)

【受け入れ可能性の検討】

- ・保護者の想いを聞き取り…同じ年齢の子どもの中で集団生活を体験させたい。その時点では歩行ができていなかったため、年下のクラスで過ごすのも構わない。仕事をしたいので預かってほしい。
- ・医療ケアコーディネーターに医療ケアの内容、訪問看護師や保育士の役割について、連絡体制について確認。児童発達支援事業所での様子について聞く。
- ・食事や排せつ、アレルギーなどについて確認する。

【受け入れに際しての確認・調整・共有事項】

- ・園としては、歩行ができなくても、本児の成長を促す環境を考えて同年齢のクラスで受け入れたいこと、そのために訪問看護師とどのように連携していくかを相談。
- ・本児が通園する日は訪問看護師が来てくれる。
- ・必要に応じてケア会議を設ける。
- ・医療的ケア児等コーディネーターを中心に、関係機関と連携していく。
- ・保育園と児童発達支援事業所の並行通園(児童発達支援事業所は週に1回程度)

【実際の医療ケアの内容】

ケアの頻度	1日に4~5回	実施者	看護師 保育者 その他
医療的ケア時の場所	保育室内の医療的ケアコーナー	準備物	吸入器、医療的ケア用品
		<p>・園生活の流れ・遊びを大事にしたいので、その日の活動内容によって、ケアのタイミングを相談しながら実施している。</p> <p>・本児の体調が悪い時など、ケアを最優先する場合もある。</p> <p>・スケジュールを視覚的に示し、本児が納得して医療的ケアを実施できるようにする。</p> <p>・ケアコーナーは必要に応じて、オープンにしたりクローズにしたりしている。</p>	
			

気管カニューレ抜去時の対応 令和3年4月1日現在 N 保育園 Mちゃん

【 保育士対応 看護師不在時 】

① 119番通報 救急車で 病院へ搬送
= 救急車到着まで =

Mちゃん
「気管カニューレを抜去しました。」
病院の ID

- ※できるだけ落ち着かせて、大泣きしないようにする。
- ※呼吸状態の確認
- ※唇・爪・手足の先をみて、チアノーゼの確認
- ※時間の経過を記録する。

紺の通園バッグを持っていく
(7mm・6mm・3mmの気管カニューレ、
8Fr吸引チューブ)

- ② 保護者の職場
保護者の携帯
- ③ 巡回看護師 (在宅療養ネットワーク)

【特に配慮を工夫した保育活動】

活動内容	プール遊び	援助者	保育者	看護師	その他
場所	園庭	準備物	タオル、水遊び用品		
		<p>・大小2つのプールを設置し、基本的には小さいプールで実施したが、本児が大きい方のプールで遊びたいという意思を示したので、訪問看護師が手をつないで付き添った。</p> <p>・他児が水遊びをダイナミックに楽しむ中で、バルブに水がかからないように、喉元にタオルを巻いたり、訪問看護師が盾になりカバーしたりした。</p>			

【ケア会議（園内カンファレンス等）の実施と職員間の共有】

ケア会議参加者	医療的ケア児等コーディネーター、訪問看護師、児童発達支援事業所、保育園
頻度	年間3~4回実施（少なくとも年度初めと年度末は必ず）
共有の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護師を通して事業所と情報共有 ・医療的ケア児等コーディネーターを通して情報収集 <p>（必要に応じて、医療的ケア児等コーディネーターと主任保育士が相談）</p>
<p>・関係者間の引継ぎ内容を、年度初めのケア会議で共有。</p> <p>（仕事の都合で参加できない時は、事業所から保護者に内容を伝達する）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本児の成長過程での変化や困りごとは、その都度コーディネーターと対応を検討する。 ・ケア会議で、それぞれの立場からの情報を共有するとともに、環境の変化や成長に応じた支援の方法を協議する。 ・コーディネーターより、医療的ケアの内容や本児の障害についてレクチャーを受ける。 ・不明なこと・気がかりなことは園の主任保育士を通してコーディネーターに伝え、対応を検討し実施する。 ・保育園の懇談で、母親と保育士が園生活や就学に向けて話し合っている。 <p>（コーディネーターと主任保育士で対面や電話などで内容を共有）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療関係者からの情報は、コーディネーターを通して共有している。 	